製錬　広瀬宰平

69 まいん

惣開の碑

宰平が開いた
日本版！産業革命発祥の地

惣開の碑

惣開の碑は、明治23年(1890)別子開坑200年を記念して、広瀬宰平が建立しました。

碑文の文章は宰平が作り、書は高橋泥舟(江戸末期の幕臣であり、山岡鉄舟・勝海舟とともに幕末の三舟と称された人物)によるものです。

惣開地区にはこれに先立ち、明治21年近代的な洋式製錬所となる惣開製錬所が建設されました。

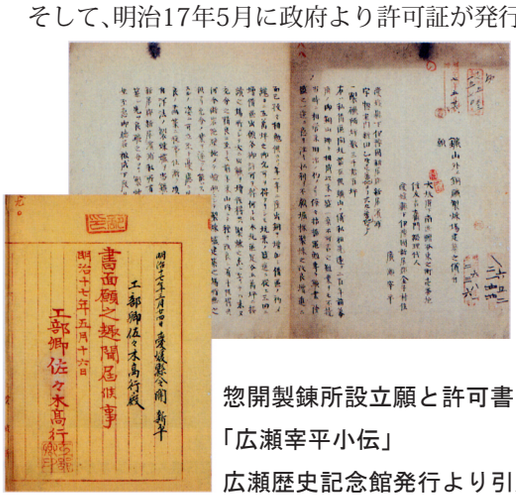
惣開製錬所
明治23年5月撮影
別子銅山記念館所蔵

明治元年に421トンあった産銅高が、明治13年で1,010トン、惣開製錬所建設2年後の明治23年には2,025トンと、ほぼ10年ごとに倍増しました。

そして、明治28年には3,232トンと3,000トンの大台に乗るなど、一農漁村であった新居浜は煙突が林立する臨海工業都市へと変貌しました。

ところで、惣開に製錬所の設立願いを出願した(明治15年12月)のが、後に四阪島の製錬所を設計する塩野門之助でした。

そして、明治17年5月に政府より許可証が発行されました。


惣開製錬所設立願と許可書
「広瀬宰平小伝」
広瀬歴史記念館発行より引用

この製錬所の許可証は工都新居浜の出生証明書であり、住友の事業が各種事業へと派生していく契機となりました。

惣開の碑には「是地や南鉱山を負ひ、北海湾に臨み、最も舟車に便なり」と工場群誕生の由来を刻んでいます。

宰平はまさしく、工都新居浜の発展を予見したのです。

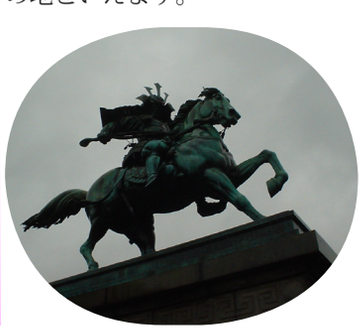
そして、四国最大の工業都市となった新居浜は、昭和33年(1958)、わが国初の石油コンビナートの火も灯ることとなりました。

別子銅山を母として、さまざまな産業が生み出されました。このことから、新居浜市は日本の産業革命発祥の地といえます。

だ～れだ？

別子銅山開坑200年を記念し、広瀬宰平はある人物の銅像を別子銅山の銅で製作し皇居前広場に設置しました。その人物は誰でしょう？

答えは、裏にあります。



http://nmh.hearts.ne.jp/k/gaidobook/069/index.htm